

第3回富山市総合計画審議会 議事録

日時 令和8年8月5日(水)14:00～16:00

場所 富山市役所東館8階 大会議室

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 議事

- (1)第3次富山市総合計画「基本構想(案)」の修正について
- (2)第3次富山市総合計画「前期基本計画(素案)」について
- (3)今後のスケジュールについて

4. 意見交換

5. 閉会

【意見交換】

<概要>

- 委員 経常収支比率、実質公債費比率、将来負担比率、これらは大事な指標だと思う。これらは説明と中核市平均も記載があるため現状がわかる。一方で10年後を展望した場合に目標をどうするのか。目標まで明確に記載が難しいのであれば、この3つの指標についての方針やスタンスを記載いただければ、行政の意思を示すものとして良いのではないかな。
- 事務局 これらの指標の目標値については、現時点で計画内に盛り込む予定はない。目標値について、経済戦略や経済状況の予測を踏まえて数値目標の作成は可能であるが、目標が宙を浮いてしまうという懸念がある。そのあたりも含めて、もう一度精査してまいりたい。
- 委員 税収の増加要因について、何か考えがあれば教えていただきたい。
また、税収を増やすことをどのように考えているのか。
- 事務局 今の段階では、総合計画の作成にあたっての現状認識として記載しているものである。近年増加している要因として、給与所得の増と企業業績が堅調であることが考えられる。
- 委員 重点推進事項に「コンパクトなまちづくりを富山市はスマートシティで進めていく」という文言があるが、頭の中にずっと入ってこなかった。
また、地域コミュニティの分野の部分で、多様な人々の記述として、男性、女性、若者、高齢者、障害者、外国人などと書いてあるが、こうした表記の仕方はこれでよろしいか。
- 事務局 本市のコンパクトシティの効果を市域全体に行き渡らせるためには、デジタル技術の活用が重要であるという考え方から、コンパクトシティ政策をデジタル技術によってさらに深めていくということを重ね合わせることが重要と考える。あくまでスマートシティは手段であって、コンパクトシティを実現するためのデジタル技術の活用ということなので、そのような表現を用いているところである。
本市では、障害者という言葉、あるいはその他の表記も含めて、この表記を使っている。富山市の場合、他の計画も含めてこの表記を使っている。
- 委員 「コンパクトなまちづくりを富山市版スマートシティで」の部分に、「政策」を入れると分かりやすくなると思う。
- 事務局 「富山市スマートシティ推進ビジョン」を策定しており、その中の記載を引用しているが、表現についてはこれからも検討したいと思っている。
- 委員 「結婚・出産・子育て」という表現について、例えば若い世代だと、結婚と子育てを結びつけないケースもあるだろうし、結婚せずに子どもを持つケ

ースもあると思う。例えば、「子育て」「パートナーシップ」といった表現だと選択肢が広く捉えられ、人々が幸せに人生を送れるようにしたいというメッセージになると思う。

また、若者の幸せに重点を置くと少し伝わりやすくなるか。性別の表記についても、男性・女性・その他という選択肢を用意する例もあるので、この点についてもご検討いただければと思う。

委員

当初は「健康・医療・福祉」が1番目、2番目に「結婚・出産・子育て」という順序だったが、前期基本計画の重点推進事項プロジェクトの記載に引っ張られる形で順番が入れ替わったのだろうと推測している。この点は前期基本計画の意見と重なるかと思うので、次の議題で発言させていただければと思う。

これまでいろいろと意見が出たが、それぞれが政策課題を自分たちなりに認識した中で意見を出されたということで理解している。計画に記載する際にはわかりやすい言葉を使っていただければと思う。多様性という形で具体的に出されたということで、どこまで踏み込んで示すかという話だと思う。事務局で最終的にご検討いただければと思う。

委員

「一人ひとりが幸せを感じるからこそが社会全体を支える力になる」という記載について、これがこの計画の目指すところであれば、一人ひとりが幸せとを感じる社会をつくるという表現の方が良いのではないかな。

また、「先人たちが紡いできた伝統文化が守られ、新しい文化やにぎわいが生まれていく」という記載についても、これまでの延長で考えるのではなく、「新しい文化やにぎわいが生まれ、そして先人たちが紡いできた伝統文化が守られる」という順序の方が適切ではないか。今までの延長線上で考えるのではなく、新しい視点を持つべきではないか。

事務局

ご指摘のあった部分については、事務局で再度修正を検討する。

委員

分野を横断する部分の中で「プロジェクト」という名前をつけているものが2つあり、その後ろに「重点推進事項」という言葉が出てくるが、それぞれの関係が言葉として非常にわかりにくいと感じた。分野別の計画、連携の重点項目、その中でもトップに位置づけたもの、といった形がわかるような定義をされた方が全体構成として見やすいのではないかな。

「総合計画事業」が各項目とどう関連するのかわからない。「計画的、重点的に推進する事業については毎年進捗管理をする」と書いてあるが、残りのものはどのように具体的にフォローされるのか、後半に出てくる連携の重点推進事項についてもどのようにフォローされていくのかが、分かりにくい。

事務局

基本計画の分野別の各テーマの中で、分野ごとの政策を示していくとい

うことになる。「総合計画事業」というのは個別の具体的な事業のことであるが、それについては基本計画には示さず、毎年策定する実施計画の中で示すこととしている。

政策・施策を実現するための取組が、その下にひもづく形になる。全項目に一律に付くわけではなく、個別にピックアップされた項目が総合計画事業として掲載される、という形になる。重点推進事項について、分野横断的な内容が書かれており、政策を実行していく中で、国の方針も踏まえて重点的に取り組まなければならない事項を重点推進事項としている。最重要課題である人口減少・少子化を最初に説明したものを作ったが、わかりにくいという話であったので、そこは工夫してまいりたい。

委員 総合計画事業に落とし込まれていくときに、もともと基本構想の中にあった「スマートシティ」という仕組みが、それぞれの施策を実現していくための1つの手段のように理解しているが、なぜ切り出しているのか。

コンパクトなまちづくりを支えるデジタル技術の活用が大きく謳われている割には、どこまでデジタル技術が活用されているのかが個別の政策・施策の記載からはあまりイメージできない。総合計画事業として計画されるときに、その具体的なデジタルの手法がわかるようになるのか。

事務局 事業を組み立てていくときに、「これはコンパクト、これはスマート」という書き方はしないつもりである。事業は施策を実現するための手段としての記載を想定しており、事業化した際に「この内容はスマートシティに係る部分」というような表現はなかなか難しいのではと今のところ考えている。

委員 スマートシティは目標ではなく、目標を実現するための手法である。個々の政策によって、デジタル化の活用方法は異なるものと考ええる。例えば交通分野であれば、AI を活用した自動運転の推進などが考えられるが、そうした具体的な取組が総合計画事業の中に位置づけられるという理解でよいのか。

事務局 総合計画事業は基本的に事業のみを対象とするものである。基本計画の中で分野別の政策・施策を説明する予定であり、本日はまだ触れていないため、今後、部会で議論いただくことになる。その中で、具体的な手法が整理されていくものと理解いただきたい。

委員 UIJ ターンに関して、若者の定着に向けて県外企業に勤めながら富山に居住し、リモート勤務を行うという選択肢も効果が大いと考ええる。鳥取県では県内に住みながら県外企業にリモート勤務するための IT スキル訓練をオンラインで提供し、県外の就職先まで紹介する取組がある。子育て中であっても県外企業での勤務を続けられる選択肢ができることが望ま

しいため、ぜひ検討いただきたい。また、若い世代が富山に戻りたくない理由を直接聞く機会を設けることも有効である。

委員 若い女性の転出率が北陸地方で全国的にも高いという話がある。理由の1つは大学の少なさと、それに伴う就職先の少なさである。もう1つは、結婚や出産に対するプレッシャーであり、伝統や慣習がしがらみとなって、外に出た方が楽になり、戻ってこない人が多いという声もある。仕事や活躍の場、女性が魅力を感じる企業を誘致することが1つの方策であり、大学と連携した仕事づくりが重要である。

委員 基本構想では、「ひと」と「まち」に区分を分けたことで、分野が分断された印象を受けたが、重点推進事項を設けることで、分野横断的に施策を進めていくことは分かりやすくなった。

人口減少・少子化対策として、自然増と社会増に繋げるプロジェクトを行う点も整理されており、分かりやすいと思う。多様な意見がある中で、85.5%の方が結婚希望を持っている背景を踏まえて、そうした希望をどのように叶えていくのか考えていくことが重要である。

また、社会増を増やすうえで、企業の誘致だけではなく、働きやすさや暮らしやすさに繋がる施策を実施することで、より分野横断的になるのではないか。

委員 「公共施設・インフラの持続可能なマネジメント」について、「合意形成」という文言を入れていただきたい。橋りようは維持管理や補強に多額の費用がかかる一方、すべてを将来にわたって維持することは難しく、取捨選択が必要である。この取捨選択は総論賛成・各論反対になりやすいため、合意形成が重要である。既に富山市で取り組まれている橋りようの廃止等の事例でも合意形成に時間を要しており、今後件数が増えれば労力が膨大になる。道路・橋りよう・上下水道等の維持管理や柔軟な利活用とあわせて、施設だけでなく人の視点も踏まえていただきたい。

委員 計画の実施計画の進捗管理について確認したい。数値的な目標を定めて毎年追っていくのか、どのような進捗管理を想定しているのか。

事務局 総合計画は毎年度ローリングを行うこととしている。指標を組んで進捗管理を行っており、それに応じた対応をしている。新たな基本計画の策定にあたり、具体的にどこまでの指標を用いるかは検討中であるが、同様に毎年度進捗管理を行うこととしている。事業実施状況と指標について、現時点で明確な指標は示せないが、それらを含めて検討していく考えである。

委員 本日配付された資料が市民にどの程度、どのような表記で公表されるのかを確認したい。例えば、重点推進事項として、プロジェクト1、プロジェ

クト2が示されているが、これが完成形に近い形で提示されているのかを伺いたい。

また、結婚希望率 85.5%という高い数値が紹介されたが、調査方法や調査対象者が明確でないため、男女比による違いなどにも関心がある。

さらに、言葉遣いについてもより多くの市民が違和感を持たないよう、自分が当事者であった場合にどのような印象を受けるかという点にも真摯に向き合いながら組み立てていただきたい。内閣府の「若者や女性にも選ばれる地域の特性に関する調査」では、魅力的なまちの共通点として、自己選択・自己実現の機会があること、昭和モデルの価値観がないこと、性別役割分担意識を取り払い多様性に寛容であることなどが挙げられている。キャリアの選択肢が豊富で、女性が結婚・出産後もキャリアアップでき、男性も育児休業取得後に復職してキャリアアップできる可能性があるという面についても、検討を進めていただきたい。

委員

ビジョンは大変重要であるが、これをより客観的に示すためには、重要な項目について数値目標を掲げることが必要であると考え。この点について検討いただきたい。

プロジェクト・分野横断テーマと基本計画との関連性について確認したい。プロジェクトや重点テーマは重要であるが、それぞれが独立して実施されるのではなく、基本計画に盛り込まれ、落とし込まれてこそ実効性が高まるものである。プロジェクトや分野横断テーマの重点テーマに記載されている取組は、基本計画にきちんと盛り込み、記載していただきたい。

またビジョンから政策・施策へ展開する際の根拠について、ビジョンを実現するために政策・施策がある以上、なぜこのビジョンを実現するためにこの施策を行うのかという根拠が必要であると考え。その根拠は必ずしもすべてが統計や実証実験で裏付けられるものではないが、このビジョンを実現するためにこれを行う、これを優先的に行わなければならないという点について、何らかの根拠を示すことが、よりわかりやすく、市民や関係者が取り組む意欲にもつながるのではないか。

委員

個別分野については今後、部会で議論できるものとするため、横断的なテーマについて全体場で議論が望ましいのではないかと考える。テーマ2の「防災力の強化」については、「主な分野」という形で網羅的に記載されていると思うが、その他にも関係する事項があると考え。特に産業も関わる分野であり、企業の果たす役割についても検討いただきたい。支援物資や物流の問題、企業との協定など、日頃から企業とも様々な取組を行っていると思われるため、企業という視点も必要である。また、企業のBCP、災害時の事業継続についてもテーマ2に関係するものであり、その点につ

いて検討いただきたい。

テーマ5の共生社会について、防災の観点が入ってもよいと考える。近年、グローバル化が進む中で外国籍の方が増えており、日本語ができない方も増えている。災害時等に避難場所や対応方法がわからない状況で暮らしていると、不安を感じることもあると考えられるため、そうした観点を取り入れて安心して暮らせるようにしていただきたい。

委員

防災分野では、自分たちの地域の防災力の向上と、連携についても関心が持たれており、取組事例も出てきている。数値的に測れるものが必要である一方、数値では測れない質的な部分や、日頃の取組、現在取り組んでいることを今後どう生かしていくかということも、両輪で進めるべきである。そうした事例や実証も含めて、この会議の場だけでなく、分野別の会議で1つ1つ積み上げていくことが有効である。

委員

本資料は第1部と第2部のつながりがやや弱く、わかりにくいと感じる。取組の土台となる考えは基本構想で整理されており、それを受けて、具体的な政策に落とし込まれている。進捗、ローリングの視点、KPI 指標、そのプロセスなどを具体的な取組として記載することが第1部からの流れとして必要である。

もう1点、基本的な視点として、コンパクトシティ、スマートシティ、SDGsがある中で、コンパクトシティからスマートシティへというつながりの部分についても、重点テーマへの落とし込みが弱い印象を受けた。スマートシティプロジェクトについても、市長の公約である「幸せ日本一のまち・富山」、「コンパクトシティからスマートシティへ」という考え方を掲げているため、そこをしっかりと骨子に落とし込んでいただきたい。

委員

地震発生後の対応として、熊本地震でも大きな課題となっている災害関連死がある。災害関連死は個人の力だけでは対応できない部分があり、自治体や国が連携して取り組まなければならない部分である。大体90%程度は近隣の人々の助け合いによって対応されると言われているが、企業からの支援物資の提供などについて、事前に契約や協定を結び、災害発生時にどう連絡し、どう対応するかを決めておく必要がある。そのような計画をしっかりと作っていただきたい。

また、政策をどのような戦略で、どこをどう活用していくかがなければ、実行に移すことは難しい。地域との連携も必要であり、地域の方々がその後どうするのかという点も含め、時間がかかる問題である一方、まちづくりにおいては早く動かなければ実現できないこともあるため、今後検討いただきたい。

委員

計画内に「人口減少・少子化対策プロジェクト」という形で打ち出すこと

について違和感がある。この計画はすべての市民に開示されるものであり、それぞれの人生観や価値観がある中で、ここまでこのような形で打ち出してよいのか疑問がある。このような形で示すと、「結婚しないのが悪いのか、子どもを産まないのが悪いのか」と見えてしまうのではないかという点が非常に気にかかる。

人口減少への問題意識を持ち、市として働きやすい、住みたい、結婚したいと思われるまちづくりを様々なところで進めていることは良いことである。しかし、それを前面に出して「出生率の向上」という形で記載することについては、長期計画の中にここまで盛り込んだ例をこれまであまり見たことがない。この点について、改めて考えを伺いたい。

事務局 富山市としては、人口減少・少子化について、これまで継続して取り組んできた一方、総合計画の中でこのような打ち出しはこれまででしかなかったというのが実情である。その根底にある課題意識をしっかりと伝えていくことが重要であると考え、今回の原案としている。

委員 各委員からの意見を聞くと、この内容を前面に出す表現の仕方については相当な意見があるものと考え。問題意識は正しいが、結婚や子どもを持つことの選択をしない人は意図しない受け取り方をするのではないかと懸念している。問題自体は正しいが、表立ってここまで出してよいのかについて、もう一度、皆さんの意見を聞いてみたい。

ここでは結論はまだ出さないが、様々な意見がある。ただし、11月に間に合わせるのであれば、少し急ぎ足になってしまう懸念がある。皆さんの意見に一定程度納得しつつ、もう少し丁寧に記載していただきたいという思いである。

委員 今の意見を受けて、自身の子どもが上は高校2年生、下は小学校5、6年生であり、10年後はちょうど子どもたちの世代にも重なる。現在、実際に感じている子育ての問題や、自身の社会での実現の問題など、様々なことを先ほどからの意見を受けて感じている。

ここに来る前に、農泊体験に参加し、農業を体験しながら関係人口の方々と交流した。県内外の関係人口をこのまちに呼び込む趣旨で開催されたものであり、母親や誰かの妻という立場を離れ、一人の女性として参加できたことも非常に良い経験であった。

委員 女性としては、出生率という表現が女性に向けられているように感じると身構えてしまう。産みたくても産めない方や、様々な事情がある方、結婚したくてもできない方もいるため、もう少し表現に柔らかさ、あるいはオブラートに包んだ言い方がある方が、受け入れやすいのではないか。

委員 基本構想の中の「未来スケッチ」は、夢を見るところからスタートしてい

る点が特徴である。一般的には課題解決型の計画になりがちであるが、そうではなく、未来から明るい夢を見ながら計画を進めていく形であると理解していた。しかし、突然、課題解決型の根本的な問題がここで出てきたため、この形が崩れるのではないかという印象を受けた。夢を語るのであれば、しっかりと踏襲をしながら、その中に人口問題も加えていく形の方が良いのではないかと考える。

委員

「政策推進の基本的な視点」に、基本構想を実現するための政策があり、それらが具体的に実行された結果として、行き着く先にコンパクトシティやスマートシティがあるのかという点について、市民の理解を得るための訴え方がわかりにくいと感じる。

また、スマートシティ政策とコンパクトシティ政策の順序性について、住民がどのように理解するのが不明確である。スマートシティ政策を実行するとコンパクトシティに行き着くのかという順序性が、市民の理解を得る上で弱いのではないかと考える。

委員

人口減少対策については、人口が例えば 30 万人になっても、今と同じように、あるいは今より幸せに暮らせるまちを作るという発想を計画に書き込むことが重要である。行政として無策でいるわけにはいかないため、人口減少対策は非常に重要であるが、そのような発想を入れ込むことが大事である。また、分野横断の重点テーマに関連して、DX については何をデジタル化するのではなく、市民生活の何が大事になっているのかを踏まえ、様々な事業を展開していく中で、そうしたことを基本計画の中に書き込むと、市民にわかりやすくなるのではないかと考える。

テーマ1については、キーワードとして「官民連携」をぜひ盛り込んでいただきたい。また、富山市ではレジリエンス計画を策定しており、BCP、交通、避難所間の連携、地域拠点などを含めた都市レジリエンスという視点を持っている。地域防災力の向上という観点から、都市防災の視点も続けて盛り込んでいただきたい。

「幸せ日本一」を基本構想に掲げていることについて、あるシンクタンクの幸福度ランキングで富山県が全国最下位という結果が報じられていた。これは主観とのギャップが非常に大きいということだと考える。客観的な評価と主観的な評価をセットでフォローしていくことが非常に重要である。

委員

本計画では、人口減少に対して富山市として何をしたいのかを、市民に向けてしっかり伝える必要がある。実現に向けてどのように準備するのかという観点で、市民や大学生も含めて話し合い、動いていく方向性で考えていただきたい。また、企業がこの取組をどのように活用するかという観

点で、実践的に進めていくことが重要であり、皆さん一人ひとりが頑張っ
て作ってほしいという言い方ではなく、そのような観点で進めていただき
たい。

委員

様々な意見をいただいたが、皆様の意見をさらに反映し、最終的な取り
まとめとしたい。

(以上)